

## 地域自然情報ネットワーク 第9期事業計画

平成23年7月1日から平成24年6月30日まで

## 1. 自然環境の調査解析にかかわる技術の企画・開発および評価事業

## ● 東京都エコロジカルレッドデータブック作成

前期に引き続き、東京都内における希少な生態系や脆弱な生態系を抽出し、生物種や群落だけではなく、「場」の保全ができるような生態系レッドデータブック整備のための基礎的な調査および図化を行う。第7期に行った、判定基準のみなおし作業をうけて、図面資料よりの判定を会員を中心とした作業によってすすめる。SpotImage社(仏)から提供を受けたSpotおよびQuickBirdの画像、ArcGISおよびENVIは緑地分布の確認や判定、情報共有、報告・広報資料の作成などへの活用を予定。

## 2. 自然環境情報の整備・公開事業

## ● 上サロベツ自然再生事業

再生技術部会および再生普及部会に参画する。サロベツ協議会普及部会で支援事業「サロベツエコムーブプロジェクト」の一環として提案採択されたエコツアーの実施の具体化に向けた具体的な検討を行う。

## 3. 自然環境保全等にかかわる人材育成・啓蒙活動事業

## ● 東京環境工科学園での人材育成

東京環境工科学園学生を対象に、自然環境分野へのGIS基本および応用技術に関する集中講義を行う。初級編は3年目をむかえ、開始より数年を経る応用編ともに教材の充実とストーリー構成などが整理され、コース授業としてわかりやすいものとなってきた。ArcGISのバージョンが8.3である問題については引き続き学園にバージョンアップの要望を継続。GCNの教育用ライセンスの活用も検討。

## ● 社会人自然環境GIS講座

社会人を対象にGIS講座開催、GISによる解析・応用技術の普及とそのための人材育成を図る。ArcGISについてはPlanet Actionによって提供されたArcGISのコンカレントライセンスの活用を検討する。オープンソースのGISの講習会とテキストの日本語翻訳については、会員有志による開催を計画する。

## ● ESRIユーザー会議への参加

ESRIワールドユーザー会議(USAサンディエゴ市)に参加し、情報の交換と収集を行う。国内で開催されるESRI社のコミュニティフォーラムではNPOとしてブース出展等を行う。

## ● 地域自然情報研究会

月一回の定期開催を続け、情報提供・情報交換・人材育成に努める。

## ● 野生生物保護学会行政研究部会の事務局として役割を果たす

## ● NPO法人野生生物調査協会との協力関係を継続する。

## ● レンジャー等の行政職員を対象とした講習

環境省のレンジャー職員等を対照とした研修に講師派遣を行い、自然環境に関するGISの利活用方法について講義する。

- 自然資源活用事業

地域の自然の価値発見，CSR への協力などを自治体，企業に提案する。

- 広報事業

ホームページ等による広報を行う。広報を会員への情報提供の重要な手段と考え，その改善につとめる。

#### 4. 自然環境保全にかかわる支援活動事業

- 西武・狭山丘陵パートナーズ指定管理業務

東京都建設局の公園指定管理者として，「都立公園狭山丘陵グループ」に自然環境 GIS の整備と管理・運営への活動提案をする。今年度から，あらたに 5 年継続業務が開始される。これまでに作成したアトラスを中心に既存データの更新と活用を行う。

活用としては広報や管理業務への情報提供と同時に利活用の提案が重要となる。

- 阿蘇草原再生協議会

前期に引き続き，協議会・生物多様性小委員会に参画し，さらに観光小委員会に参加する。

次々回の協議会に，再生事業計画として「阿蘇地域における森林の増加と湧水量の減少の相関に関する研究」を提案する。また，プロジェクトチームを結成して，助成金に応募し，研究を実施し，阿蘇の草原再生が熊本地域の湧水量確保に貢献することを証明し，草原再生の必要性を説く。